

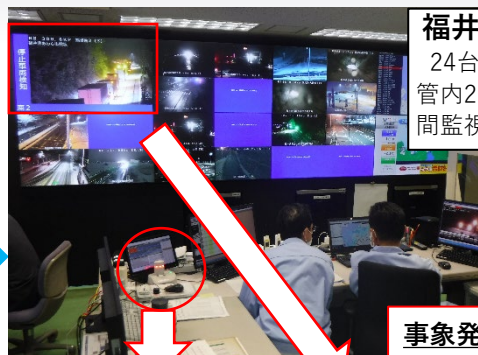
災害時のAIによる異常検知の導入

豪雨や豪雪等に伴う「災害発生時」は、土砂流出や降雪によるスタック車両などの交通障害を早期に発見することが、その後の被害を軽減するために重要です。現在はパトロールやCCTVによる目視での確認が中心となっていますが、見落としやタイムラグが生じる場合があります。このため、CCTVの整備拡大にあわせて、AIによる画像解析で、停止車両等を自動検知する「異常検知システム」の導入を進めています。

豪雪時のスタック車両の検知 (H30.12~)

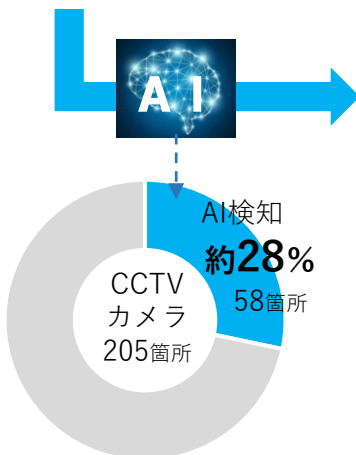


AI交通障害自動検知システム



福井河川国道道路情報室
24台のCCTVモニターにより管内205台のCCTV映像を24時間監視

事象発生の予兆等の検知時
対象画像を表示
パトライトで警報



AI交通障害自動検知システム導入率 (R5.3 福井河川国道事務所管内)

※近畿管内のR5年度導入予定：滋賀国道20箇所、和歌山河川国道20箇所

異常検知の高度化



赤：波として認識 緑：車両として認識
灰：道路として認識



今後は、①渋滞やSNS情報等と重ね合わせたシステムの開発や、②越波など自然事象に対する検知対象の拡大などの高度化に関する検討を進めます。

- ①： R5 既存情報の収集及び実用性の検証
R6 各情報の融合による検知システム設計
R7 システム試行導入
- ②： R5 システム試行導入・検証
R6 検証結果を踏まえた追加学習の実装